

電子ジャーナルバックファイル購入による 書架スペース確保の事例

奈良県立医科大学附属図書館

大瀬戸 貴己

はじめに

奈良県立医科大学附属図書館では、昨年の円高によって出た予算の余剰で、体系的にもれなく収集でき、オンラインの形態で提供できる電子ジャーナルバックファイルを購入した。

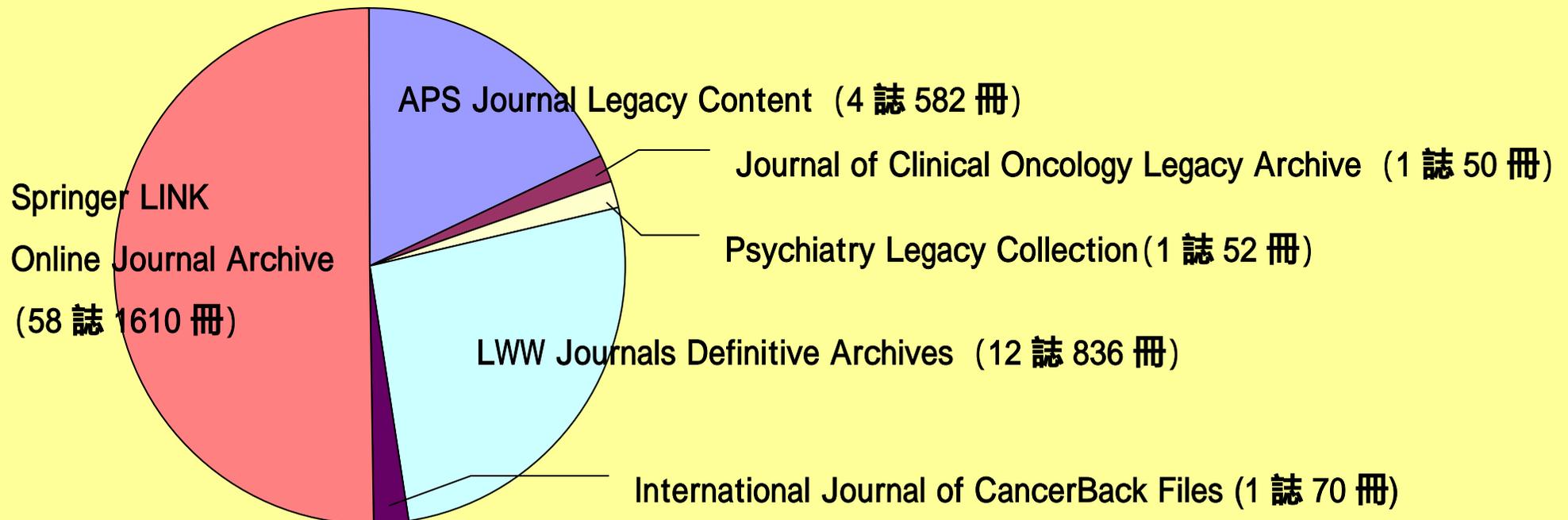
当館では別棟に書庫を持ち、ほとんど利用のない資料を保管していたが、2010 年度より他目的で使用するため資料を図書館に移転せねばならず、早急に書架を空ける必要があった。そこで、購入したバックファイルでカバーされている資料を廃棄し、書架スペースを確保することが学内で承認されたため作業を開始した。

対象と方法

購入したバックファイルのうち、当館に該当年を所蔵している 86 誌を廃棄対象とした。廃棄対象誌の製本巻号と登録番号を目録カードからリストアップし、3 人体勢で廃棄作業にあたった。

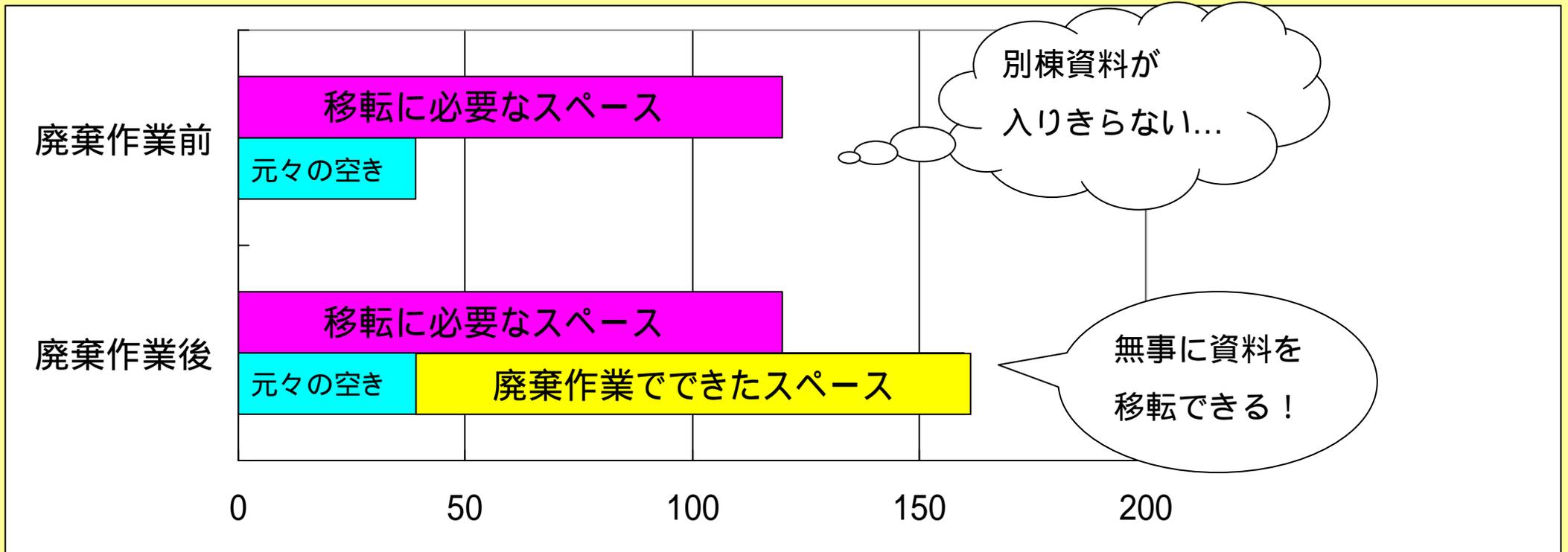
廃棄対象製本のバックファイルパッケージ割合

() = 廃棄対象誌数と廃棄製本冊数



結果

製本雑誌 3200 冊を廃棄し、約 160 段分の書架スペースを確保できた。



書架 1 段 = 製本 20 冊 書庫 1 層全体 = 2600 段

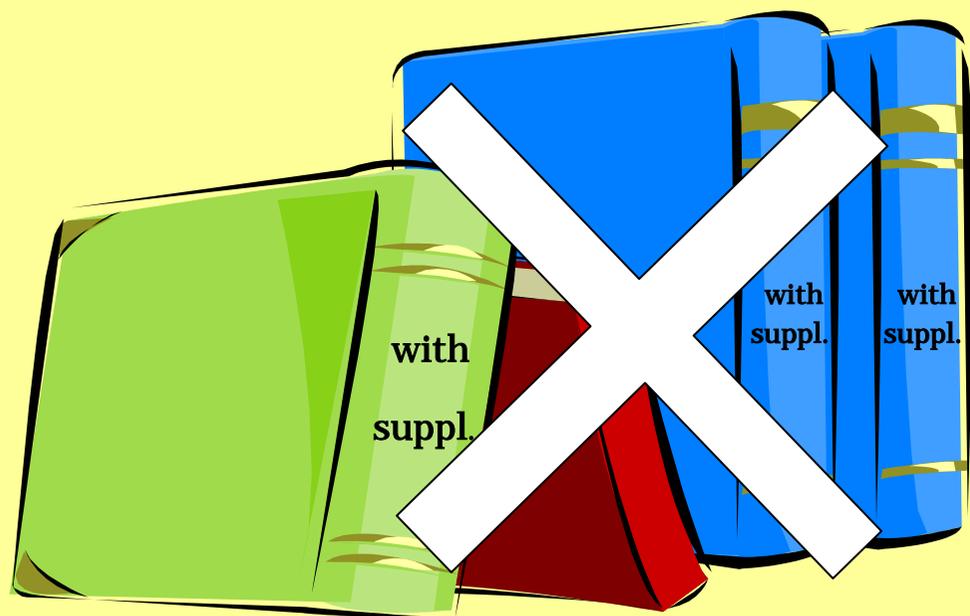
廃棄製本 3200 冊 ÷ 書架 1 段 20 冊 = 160 段

$160 \div 2600 = 0.06153... \quad 0.06$

書庫 1 層の 6% のスペースを確保

考 察

電子ジャーナルでは、通号は利用できても supplement (別冊/増刊) は利用できない場合がある。そのため、バックファイルの該当年だけでは単純に廃棄の決定ができない。各対象誌に含まれる suppl.が利用可能か確認してから廃棄をするのがもっとも確実な方法だが、時間や作業人数が限られていたため、作業効率を考え、suppl.を含む製本は今回廃棄を保留した。



すぐに
廃棄できない

考 察

- ・ 次の論文が前の論文の続きに収録されている。
- ・ suppl.が通号の1論文として収録されている。

EJの質が出版者によってまちまち。
(フォロー対応も)



電子ジャーナルに収録されていてもなかなか見つけれられない

冊子体とは異なる点として、電子ジャーナルでは掲載対象年内の巻号であっても、本当に正しく収録されているかはその巻号を利用するまでわからないということが今回の事例でわかった。さらに、**通号がページ途中までしか収録されていない(!)**といった論外の間違いまであった。電子体はその質が出版者によって異なり、対応もまちまちなのが難点である。

結 論

suppl.を含む製本雑誌の廃棄を保留にしたため、当初見込んだ冊数よりも実際廃棄した冊数はやや減少したが、時間的余裕のない中で別棟資料の移転を無事完了することができたという結果を見ると、バックファイルの購入を資料廃棄や書架スペース確保につなげたことは有効だったといえる。

今 後

今回の廃棄作業を機に、当館図書除却要項(除却の決定基準)に「買取等により永続的に利用が保障された電子ジャーナルの当該発行年分又は電子ブックと同一内容のもの。」という項目を盛り込んだ。

さらに、近年急速に普及している機関リポジリーに注目し、同要項(除却の決定基準)に「機関リポジリー等を通じて電子的に一般公開されているもの。」という項目を同時に設けた。

今後は和雑誌についても洋雑誌同様電子体で利用できるものは書架スペース確保のため廃棄する方針である。

補足 作業の流れ（怒濤の4ヶ月）

1月12日	製本雑誌廃棄のため、廃棄対象リスト作成に取りかかる。
2月8日	リスト作成と平行し、製本雑誌の廃棄作業を始める。
2月22日	廃棄リスト完成。起案をあげる。
3月1日	別棟書庫にて資料のパッキングを始める。
3月8日	別棟資料追い出し作業を始める。
3月15日	追い出し完了。製本雑誌の廃棄作業に戻る。
3月23日	廃棄完了。空いたスペースの調整に入る。
4月14日	調整完了。別棟資料の組み込みに入る。
4月16日	別棟資料の移転作業完了。